## 刊行にあたって

筆者は大学卒業後、歯周病学教室大学院に進み、研究と臨床に励んだ。当時は、歯周外科治療ができるようになることが自分自身のプライオリティーであったが、一口腔単位の診療をするなかで保存修復にも興味をもち、クオリティーの高いレジン充塡ができるようになりたいという気持ちも芽生えてきた。

その後、大学を退職し、勤務医として勤めるなかで、出身大学の大先輩である岡口守雄先生にお誘いいただき、ダイレクトボンディングのセミナーを受講したことがこの治療法に本格的に取り組むきっかけとなった。そして、第一人者である青島徹児先生に師事して研鑽に励むが、偉大な先人のような素晴らしい治療結果を得られず、試行錯誤を繰り返す日々であった。

このような日々が数年続いても、天才的な技術やセンスをもち合わせていない筆者はいくら練習してもうまくいかず、あきらめかけていた。そのなかで辿り着いた先は、“天然歯の観察”であった。う蝕や修復物のないピュアな歯の形態を観察し、写真を撮って、徹底的に形態を頭に叩き込んだ。さらに、マイクロスコープに出合ったことで、コンポジットレジン充塡の適合精度を最大限まで追究し、形態復元と治療の長期性の両方を実現できるようになった。

これまでダイレクトボンディングは、技術とセンスをもち合わせた一部の歯科医師の治療法と思われてきた側面があるが、歯の形態の規則性やバリエーションを覚えることにより、クオリティーが高くかつ再現性のある治療に昇華してきている。

デジタルデンティストリーがもてはやされ、急速に拡大している現在であるが、低侵襲かつ精密で審美的なダイレクトボンディングもまだまだ求められていると思われる。本書には筆者が遠回りして習得した技術と知識が詰め込まれているが、読者の皆様には最短距離で習得していただきたいと思っている。本書がその一助となれば幸いである。

2023年 3 月
佐藤貴彦